

研究課題名「脳卒中患者における『動作を伴うコミュニケーション』が患者満足度と理学療法士の臨床推論に及ぼす影響」に関する情報公開

1. 研究の対象

本研究の対象者は、2025 年 10 月 14 日から 2026 年 4 月 26 日の間に、鶴飼リハビリテーション病院にてリハビリテーションを受けた脳卒中患者さんと、同期間に同病院に勤務していた理学療法士のうち、「『動作を伴うコミュニケーション』の患者の主観的訴え抽出に対する効果（承認番号：7 鶴リハ第 33 号）」への参加に同意され、データの二次解析に同意いただいた方を対象とします。

2. 研究目的・方法・研究期間

研究目的：

脳卒中患者はセラピストとの効果的なコミュニケーションを望んでおり、このことはケアの質に影響すると言われています。コミュニケーションには、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションがあり、後者には身体動作が含まれます。理学療法の診療場面では、患者の動作遂行を媒介にしたコミュニケーションを行うという特徴があります。このような「動作を伴うコミュニケーション」が、患者と理学療法士の双方にどのような影響を及ぼすのかについては十分に検証されていません。本研究の目的は、患者と理学療法士間の「動作を伴うコミュニケーション」と「動作を伴わないコミュニケーション」を比較することによって、「動作を伴うコミュニケーション」では患者の主観的発言がより多く引き出され、患者満足度および理学療法士の臨床推論にどのような影響を及ぼすのか検証にすることです。

研究方法：

本学で新たに行う研究では、新たなデータ取得はありません。上記の既存研究で得られた仮名加工化されたデータを鶴飼リハビリテーション病院の管理者から提供していただき、二次解析を行います。二次解析として、統計解析およびテキストマイニングを行います。

研究期間：実施承認日 ～ （西暦）2029 年 3 月 31 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

対象患者の疾患名、年齢、性別、MMSE の得点、FIM 総得点および病前移動能力
理学療法士の年齢、性別、実務経験年数、患者と PT とのコミュニケーション場面で遂行
された動作の種類と遂行時間、患者と PT とのコミュニケーション場面の会話内容のテキ
ストデータ、アンケートの回答

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内
で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理
人の方および理学療法士の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下
記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんおよび理学療法士の方に不利益が
生じることはありません。

連絡先：名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻

予防・リハビリテーション科学・教授・内山靖

住所：名古屋市東区大幸南一丁目 1 番 20 号 内山靖 研究室

直通電話番号：052-719-3155（内山）

e-mail：uchiyama.yasushi.f9@f.mail.nagoya-u.ac.jp

研究責任者：名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻

予防・リハビリテーション科学・教授・内山靖

研究分担者：名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻

博士課程（後期課程） 柳瀬由起子

-----以上